

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 4 区分
 【発行日】令和 2 年 4 月 9 日 (2020.4.9)

【公開番号】特開 2018-150571 (P2018-150571A)
 【公開日】平成 30 年 9 月 27 日 (2018.9.27)
 【年通号数】公開・登録公報 2018-037
 【出願番号】特願 2017-45469 (P2017-45469)
 【国際特許分類】

C 2 2 B 5/10 (2006.01)

C 2 2 B 1/16 (2006.01)

C 2 2 B 23/02 (2006.01)

【F I】

C 2 2 B 5/10

C 2 2 B 1/16 1 0 1

C 2 2 B 23/02

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 2 月 21 日 (2020.2.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

酸化鋳石を含有する混合物を還元することによって金属又は合金を製造する酸化鋳石の製錬方法であって、

少なくとも前記酸化鋳石と炭素質還元剤とを混合及び混練する混合・混練処理工程と、得られる混合物を還元炉に装入して所定の還元温度で加熱する還元工程と、を有する酸化鋳石の製錬方法。

【請求項 2】

前記混合・混練処理工程により得られる混合物を成形して混合物成形体を得る混合物成形工程をさらに有し、

得られた混合物成形体を、前記還元炉に装入して所定の還元温度で加熱する

請求項 1 に記載の酸化鋳石の製錬方法。

【請求項 3】

前記混合・混練処理工程により得られる混合物を容器に充填する混合物成形工程をさらに有し、

容器に充填された前記混合物を、前記還元炉に装入して所定の還元温度で加熱する

請求項 1 に記載の酸化鋳石の製錬方法。

【請求項 4】

前記還元工程における還元温度は、1250 以上 1450 以下である

請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の酸化鋳石の製錬方法。

【請求項 5】

前記還元工程では、前記混合物の表面に前記金属又は合金からなる殻を生成させることなく、前記酸化鋳石を還元する

請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の酸化鋳石の製錬方法。

【請求項 6】

前記還元工程を行った後、スラグを分離して金属又は合金を得る分離工程をさらに有す

る

請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載の酸化鋳石の製錬方法。

【請求項 7】

前記酸化鋳石がニッケル酸化鋳である

請求項 1 乃至 6 のいずれか 1 項に記載の酸化鋳石の製錬方法。

【請求項 8】

前記合金としてフェロニッケルを得る

請求項 7 に記載の酸化鋳石の製錬方法。